

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 9月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100174
法人名	NPO法人沙羅林
事業所名	グループホーム沙羅林いそべ
所在地	群馬県安中市磯部三丁目1150-1 (電話) 027-384-0206

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年8月22日

【情報提供票より】(19年6月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 81.88歳	最低	69歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	櫻井内科医院・碓氷病院・須藤病院・林歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは本人の意志や、家族、協力医療機関との観覧のもとに看取りの経験があり、利用者の残る人生を如何に支えるかと言う観点から終末期ケアについて積極的に対応したい意向を示している。理念は尊厳を重視して、夢と希望を与え続ける支援を目指しており、全職員が共通認識を持っている。リビングにはゆったりとした時間の流れが感じられ、利用者の表情は寛き、笑顔がみられ、理念に基づいて1人ひとりのその人らしさを支える職員の努力を伺い知ることが出来る。運営者は自己負担の軽減を実施している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事を楽しむ:職員は利用者の意志や気持ちを大切にしながら、全職員が利用者と同じ物を食べて美味しい食事を楽しむ姿勢に改善された。鍵をかけない工夫:玄関にデイサービスセンターが設置されているので、見守りの関係が出来ており施錠の課題は改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義や狙いを理解して積極的に改善に向けて取り組んでいるが、自己評価を全職員で作成することが課題として残されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しており、ホーム側から利用者の生活や、ケアの実態を報告して参加者とフリートーキングを行い、それを活かした取り組みをしている。運営推進会議録は公開している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「ホーム便り」を発行し、家族の来訪時には利用者の暮らしの様子を報告している。苦情担当係を置いて、面接と投書箱を設置し、前向きに意見を聞き、質の向上を目指している。家族会の意見も尊重し、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、特別会費を払って、市の広報やお知らせ板等を頂き、交流を計っている。ホームの主催事業には、区長や近隣の方たちに参加を呼び掛けており、地域の催物には参加を心かけている。ホームのクリスマスには幼稚園児を招いて遊戯等をして頂き、子供達との交流も深めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生命の尊厳を貴重として利用者に夢と希望を与え続けたいという事業所独自の理念をつくりあげている。	○	既存の理念に地域ネットワーク作りを考えて加えることで、地域密着型理念として定着させて欲しい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月実施している職員会議には、管理者、職員は理念の実践に向けて具体的に話し合い、共有を確かめながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、特別会費を払って、市の広報やお知らせ板等を頂き、交流を計っている。ホームの主催事業には近隣の方たちに参加を呼びかけ、地域の催物には積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や、狙いについては、運営者管理者は理解しており、前回の外部評価の改善に向けて前向きに取り組んでいる。	○	評価は管理者や一部の者のみで作成するのではなく、全職員が取り組む体制作りを期待する。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、ホーム側から利用者の生活や、サービスの実際を報告して、参加者とフリートーキングを行い、それを生かした取り組みをしている。運営推進会議録は公開している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課には担当職員が出向いて、事業説明等を行い指導を受けており、ホーム主催事業には、市の職員の参加をお願いしている。月に一度行なわれる市の主催である職員研修会には積極的に参加をしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の「ホーム便り」で利用者の健康やくらしの様子等を個別に作成して届けており、家族の来訪時にも利用者の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当係を定め、面接や投書箱設置して前向きに意見を聞き質の向上を目指す取り組みをしている。家族会の意見も尊重し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力さけることに配慮している。本ホームでは過去3年間に異動は皆無である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、職員研修は段階に応じて参加の機会を確保しており、市が主催する月1回の研修会には必ず1～2名が参加して、職員会議時に報告が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に加入して相互に交流する中で、質の向上を目指す取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者はサービス利用前に本人や家族と面接し、ホームの説明をしており、家族からは、本人の情報を得て利用者が安心して馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護の対象とのみとらえるのではなく、豊かな人生経験を持つ先輩として接することを職員は共有しており、関係作りに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誇らしげにノートに線を引いて数字を羅列している利用者に職員は暖かく支援している。発語が困難であったり、意思表示が伝わらない利用者には行動を通して本人が何を望んでいるのか等目的を探る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に全職員でカンファレンスを行い個人的な介護計画を作成している。定期的に榛名病院から機能訓練士を招いていて、効果があり移乗が楽になった利用者もいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回職員会議時にカンファレンスを行い、見直しを実施しているが、変化が生じた時には随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態により、かかりつけ医受診の付き添い。緊急時及び入退院の移送サービス。近くに市営の湯があり、月に2-3回の入浴支援。在宅の認知症患者の緊急時のデイサービスやショートステイの受け入れ。医療関連体制加算事業。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の受診は家族が同伴しているが、緊急時等には職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関連医療機関の積極的な協力により、看取りの経験があり、今後も本人、家族、医療機関との連携により終末期ケアに前向きに対応していく体制である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に配慮して訪問者受付台帳を廃止し、受付箱に変更した。利用者に対しては一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう職員の対応を徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者本位を心掛け、希望に添ってその人らしく自由に過ごせるような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全職員が一緒にテーブルには着かないが、個々の必要性、要望に添って臨機応変に対応して家族的な美味しい食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月火木金の4日間を入浴日と設定しており、利用者の都合や好みで対応している。近くに市営で無料の「恵の湯」があり、月に2-3回希望に応じて職員が入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買物、野菜作り、食事の手伝い、洗濯物たたみ等、個別の役割や楽しみが発揮できるように支援している。年2回、りんご狩、観音山のバス旅行等を計画して楽しみや希望が持てるように取り組んでいる、		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて外気欲や買物、散歩に出掛けて心身の活性につなげる支援をしている。更に地域の人との触れ合いが持てるような働きかけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にデイサービスセンターがあり、ホームの利用者を見守る関係が来ているので安心して施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。1回は消防署による指導、1回はホーム独自の訓練で災害にそなえており、緊急連絡網を作成している。火災報知器、誘導灯、ガス漏れ遮断機等の点検は年1回行われている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成する献立表を基に1日3回の食事の栄養バランスに配慮している。水分摂取状況もチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寛いだ家庭的雰囲気がリビングに流れており居心地のよい環境の中で利用者は自由に過している。昼近くにはご飯の炊ける匂いが漂って生活実感があり、心地よく過せる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、時計、カレンダー、家族や本人の写真、作品等馴染の物が飾られ、居心地よく過せる環境に配慮している。		